監視社会は許さない

5/24 赤旗

「共謀罪」強行に抗議 国会前行動

国民無視政権 ひどい

「未来公共」仕事帰りの若者も

「説明できない法案いらない」とコールする人たち＝23日、国会正門前

「共謀罪」法案の強行採決に抗議し、世論を広げて必ず廃案にしようと23日夜、「未来公共」（未来のための公共）は国会正門前で緊急抗議を行いました。「安倍政権による政治はあまりにもひどい」と怒る20代の会社員など、2000人（主催者発表）の人びとが参加。ドラムの音が鳴り響き、「説明できない法案いらない」「勝手に決めんな」とコールしました。

東京都国立市の加藤晾巳（まさみ）さん（22）は、仕事を終えて駆けつけました。「国民を無視している安倍政権にとにかく腹が立った」。先週の金曜日から抗議に参加するように。「黙っていても何も変わらないと思って。声をあげて、安倍政権を終わらせたい」

千葉県流山市の杉浦真志さん（31）は「黙っていたら、私たちの人生が国家に奪われてしまうような危機感がある。反対の声をあげたい」。神奈川県相模原市の阿部悠さん（39）はベビーカーに3歳の息子を乗せて参加。「多くの人が声をあげれば、政権にプレッシャーになる。行動し続けます」と話しました。

未来公共の中山美幸さん（22）は、「とにかく『共謀罪』法案を止めたい。政府の思い通りに私たちは絶対黙らないし、諦めません」と訴えました。

採決その時〝恥を知れ〟

参院での廃案、決意高く

「共謀罪は今すぐ廃案」と怒りの声を上げる人たち＝23日、衆院第２議員会館前

「共謀罪NO実行委員会と総がかり実行委員会の国会前行動には多くの市民がつめかけ、「参院で必ず廃案に」の思いを固め合いました。初夏を思わせる日差しの中、正午の集会には1200人。衆院本会議が始まった午後3時には、さらに多くの市民がつめかけ1500人が集まりました。

午後4時ごろ、本会議で採決の投票が始まった知らせに、参加者らは「今すぐ廃案」のかけ声をさらに大きくしました。

連日参加している富山洋子さん（83）＝千葉県浦安市＝は「子どもだった戦中のことを思い出す。命と暮らし故郷が国に奪われた」といい、法案通過には「おまえたち（政府）そんなことをして恥ずかしくないか。怒りを大いなるエネルギーに変えて決して諦めない」と力を込めます。

全国商工団体連合会の天野晶さん（23）は「審議日程がずれ込んだのは運動の成果だ。行動はムダになっていない。抗議行動を続けていくしかない」と決意しました。

段ボールに「未来の子ども達に監視社会を残してはならない！共謀罪は憲法違反」と書いたボードを掲げる山本勝美（66）さん＝綾市＝は「沖縄と一緒。『勝つまでは諦めない』。こんな日本を恥ずかしくて子どもたちに残せない」といいます。

「父は19歳の時、戦争に反対する学生新聞を発行して、治安維持法で逮行された。そうやって反対の声をつぶしてから戦争を起こしていくのです。絶対に許せません」と話すのは元地方公務員の鎌田由利子さん（66）＝東京都足立区＝。「今日の強行採決はひどい。これからの参院での審議にむけて、とにかく反対の世論を広げたい。皆で力を合わせれば絶対にはね返せます」と思いを新たにしていました。

昼の集会では、日本共産党の藤野保史、小野君枝両衆院議員や民進党、社民党の国会議員があいさつしました。

内心の自由 渡さぬ

23日夕方からは、衆院本会議での強行採決に抗議する共謀罪NO実行委員会と総がかり行動実行委員会による国会前集会が行われ、2400人が参加しました。

主催者あいさつした福山真劫さんは「世論は強行採決を許していない。ここであきらめるわけにはいかない。衆院を上回るたたかいをわたしたちでつくろう」と訴えました。

参加者らは「言論封じの共謀罪反対」「内心の自由を奪わせないぞ」と声をあげました。

鳥取市から来た医療関係者の男性（54）は「きょう夕方に国会へ来た。強行採決は歴史の汚点だ。『国連の条約参加に必要』と言いながら、共謀罪法案はプライバシーを侵害する恐れがあるとする国連の特別報告者に抗議するのは、条約参加は口実だったことの表れだ」と話します。

集会には、日本共産党、民進党、自由党、社民党の国会議員が参加しました。

山下芳生副委員長ら日本共産党の国会議員19人が参加。藤野保史衆院議員があいさつしました。